船舶・航空機の入港推移

1　船舶

財務省貿易統計「船舶・航空機統計」によれば、北九州港（門司港・戸畑港の計）の船舶入港隻数の推移は**図－32** のとおりである。2022 年は 3,495 隻となり、全国（91,184 隻）の 3.83%を占めている。このうち門司港は 2,157 隻、戸畑港は 1,338 隻であり、九州経済圏内の港では、それぞれ３位と６位になっている。

入港隻数は 2012 年の 4,954 隻をピークに減少が続いている。近隣の他港でも減少傾向にあるが、北九州港は近年の減少幅が大きい（**図－33**）。

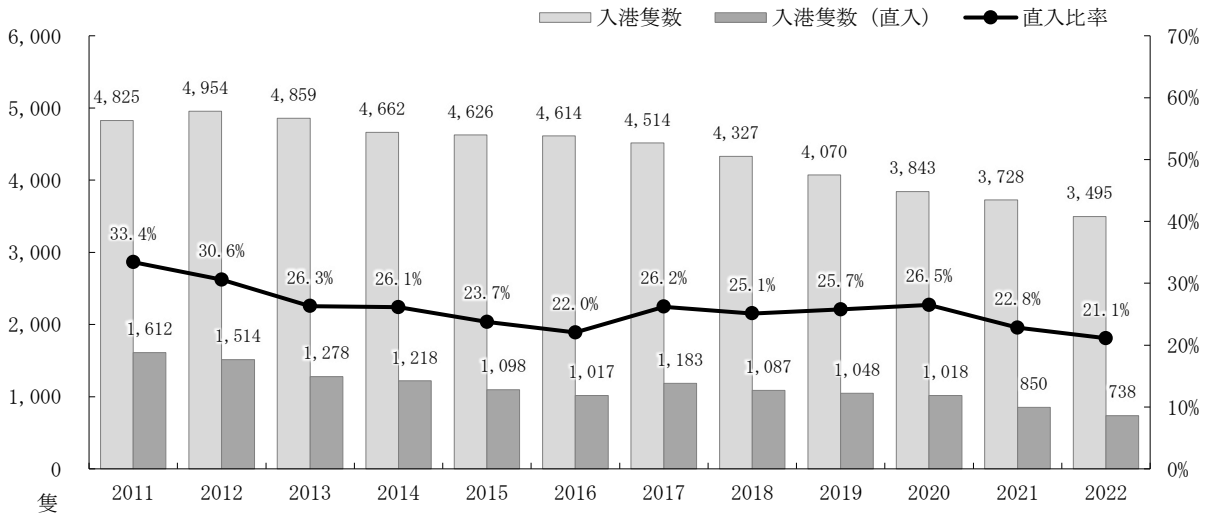
直入港（入港隻数のうち、外国港から国内の他港を経由せずに直接入港する隻数）隻数は 2011 年の 1,612 隻をピークに減少傾向が続き、2022 年は 738 隻となった。2022 年の直入港の比率は 21.1%であり、博多港、大分港、徳山下松港など近隣港に比べて低い傾向にある（**図－34**）。

九州経済圏の入港隻数上位港（2022 年）

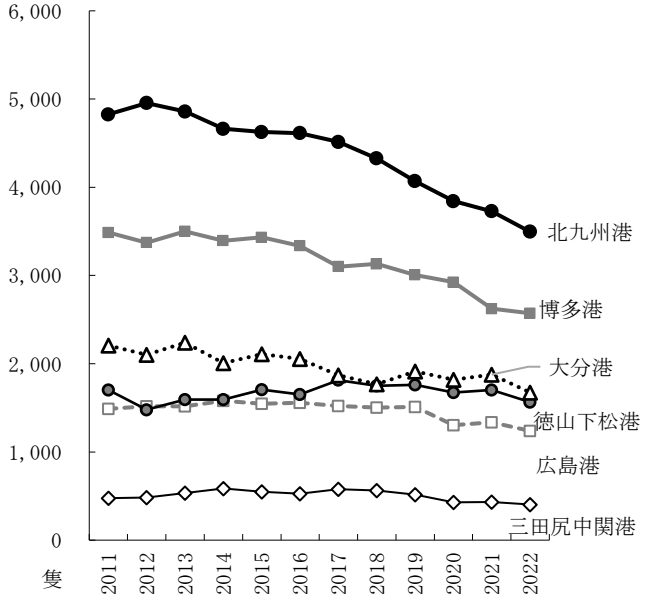
順位	港	入港隻数
1	博多港	2,572
2	下関港	2,415
3	門司港	2,157
4	大分港	1,674
5	徳山港	1,415
6	戸畑港	1,338
7	岩国港	595
8	志布志港	571
9	苅田港	462
10	伊万里港	461

北九州港 3,495

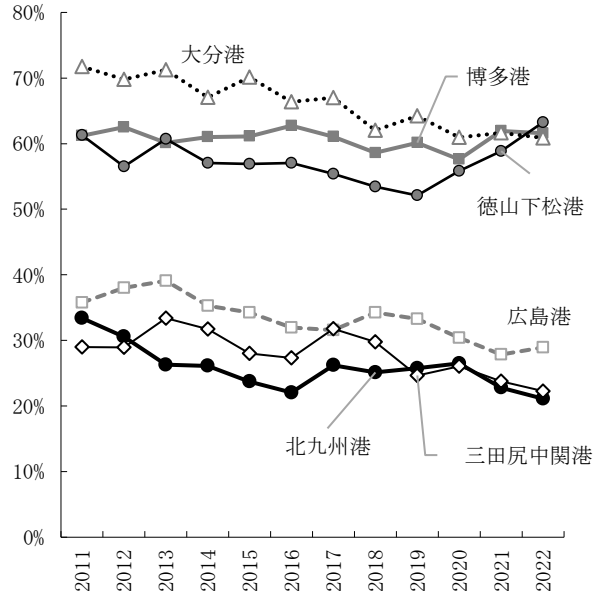
図－32　船舶入港隻数の推移（北九州港）



図－33　船舶入港隻数（近隣港との比較）



図－34　直入港比率（近隣港との比較）

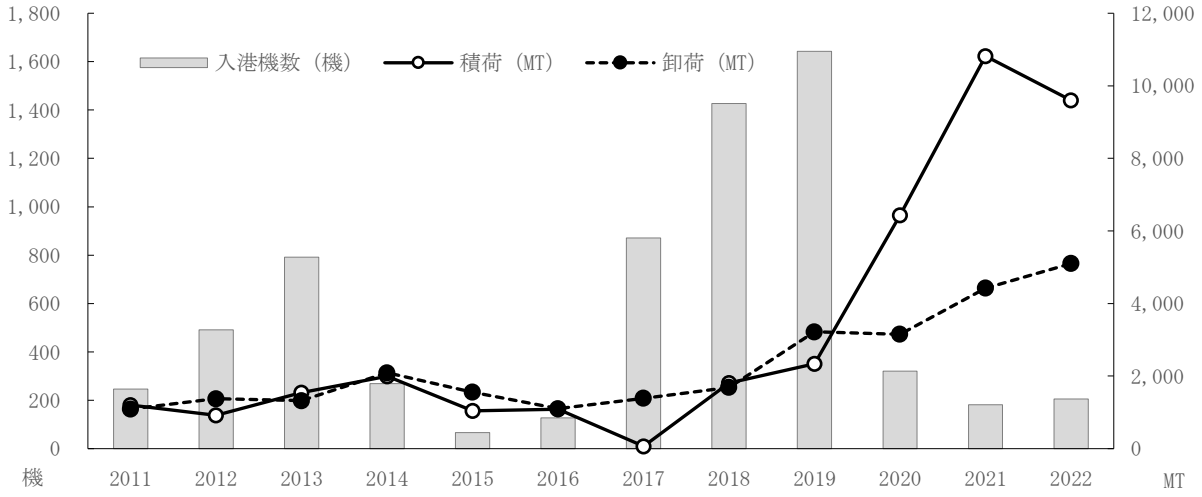


２　航空機

北九州空港の航空機入港機数は、インバウンド需要による韓国路線の増加を背景に、2016～2019 年にかけて大きく増加してきた。しかし、新型コロナウイルス流行により国際旅客便の多くが運休となった 2020 年には大きく落ち込み、2021 年も前年比 43.4%減、2019 年比 89.0%減の 181 機であった。その後、2022 年は、同年 10 月 11 日に出入国条件が緩和されたことを受け、前年比 13.3%増の 205 機となった。積荷は同 11.3%減、卸荷は同 15.4%増であった。一方で、2019 年 11 月の北九州空港発 仁川国際空港着の国際貨物定期便就航、2021 年 10 月の同区間の増便などを受け、2019 年から 2021 年にかけて貨物便の増加が続き、積卸量は大幅に増加した。この動きは 2022 年に一服したものの、2023 年２月 20 日に深圳宝安国際空港との間に国際貨物定期便（週５便）が就航したことで、今後、さらなる増加が期待できる。

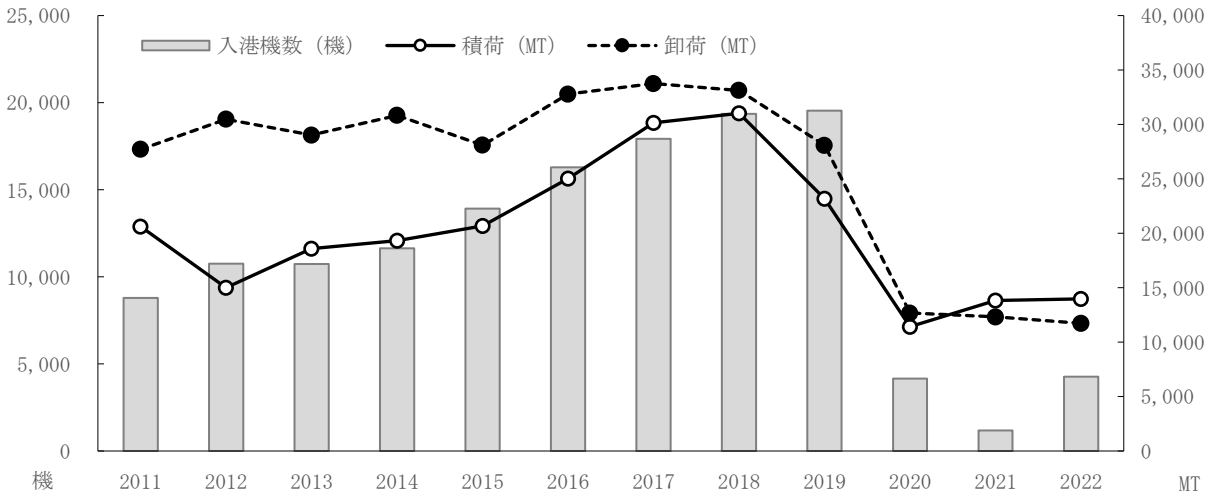
近隣の福岡空港では、出入国の緩和の影響が北九州空港に先んじて表れており、2022 年の入港機数は前年比 263.7%増の 4,270 機となった。一方、積卸量は前年から大きな変化はなく、積荷は同 1.2%増、卸荷は同 4.8%減であった。

図－35　航空機入港機数・積卸量の推移（北九州空港）



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
入港機数（機）	247	491	792	269	67	127	871	1,427	1,642	320	181	205
積荷（MT）	1,197	918	1,544	1,995	1,047	1,084	67	1,808	2,338	6,431	10,819	9,597
卸荷（MT）	1,093	1,374	1,322	2,090	1,558	1,100	1,391	1,689	3,221	3,153	4,422	5,101

図－36　航空機入港機数・積卸量の推移（福岡空港）

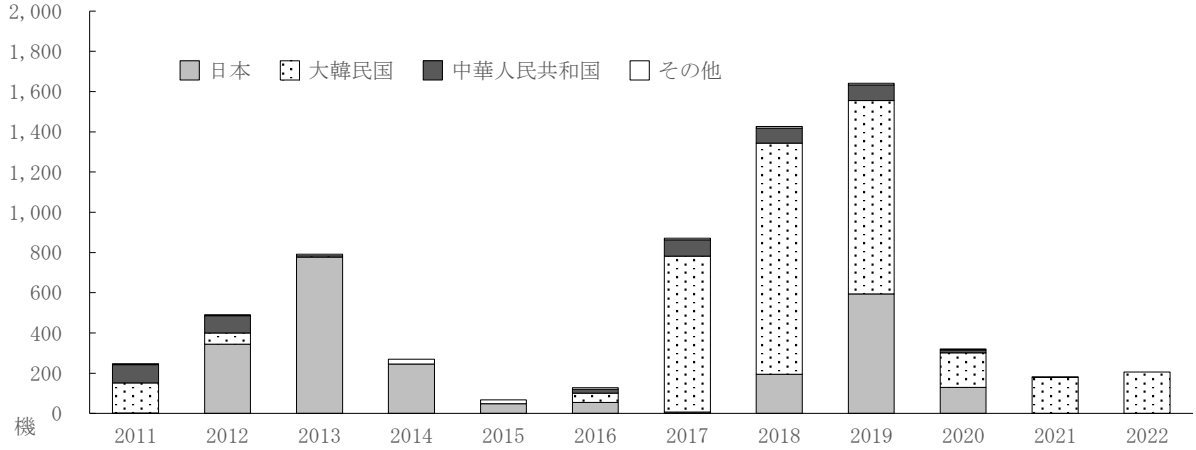


	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
入港機数（機）	8,798	10,751	10,746	11,635	13,924	16,289	17,915	19,352	19,549	4,150	1,174	4,270
積荷（MT）	20,633	15,013	18,602	19,324	20,666	25,027	30,143	31,024	23,186	11,423	13,816	13,984
卸荷（MT）	27,711	30,484	29,019	30,835	28,100	32,791	33,759	33,125	28,081	12,667	12,316	11,729

北九州空港における入港機の国籍内訳は、年により大きく変動してきた（**図－37**）。近年では日本国籍機が比較的多く、絶対数でも福岡空港を上回っていたが、2021 年は０機となり、全ての入港機が外国籍であった。また外国籍機は、ほとんどが韓国籍機であり、その他はわずかである。韓国籍機は、2019 年は年央からの日韓関係悪化により、2020 年は新型コロナウイルス感染流行により減少した。その後、2021 年は 179 機、2022 年は 205 機と２年連続で増加したものの、2022 年は 2019 年比では依然、78.7％減である。

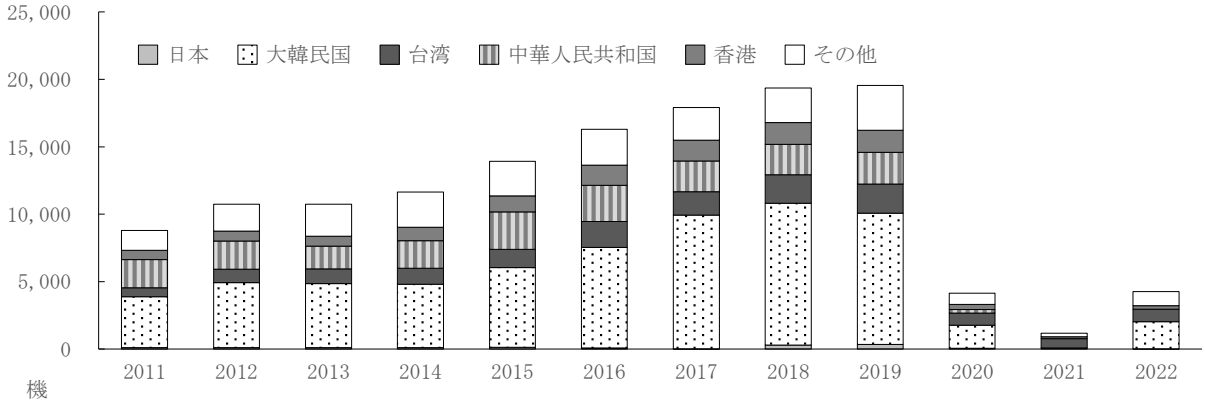
近隣の福岡空港でも韓国便を中心に便数の回復が見られ、2022 年の韓国発の入港機は 2,030 便と前年比 27.8 倍であったが、2019 年比では依然、79.1％減である。

図－37　航空機の国籍別入港機数の推移（北九州空港）



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
その他	4	6	8	23	19	8	8	9	9	4	2	0
中華人民共和国	91	85	0	0	0	18	81	74	78	15	0	0
大韓民国	150	56	7	0	0	47	776	1,149	961	171	179	205
日本	2	344	777	246	48	54	6	195	594	130	0	0

図－38　航空機の国籍別入港機数の推移（福岡空港）



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
その他	1,468	2,006	2,385	2,598	2,561	2,646	2,437	2,551	3,328	835	256	1,053
香港	699	733	729	992	1,182	1,498	1,528	1,624	1,637	378	140	264
中華人民共和国	2,094	2,088	1,685	2,060	2,795	2,686	2,289	2,254	2,344	276	0	0
台湾	646	1,002	1,086	1,171	1,335	1,918	1,724	2,109	2,169	894	705	922
大韓民国	3,781	4,810	4,754	4,701	5,926	7,463	9,917	10,517	9,729	1,704	73	2,030
日本	110	112	107	113	125	78	20	297	342	63	0	1